

消防用ホースの点検基準・要領（工業会基準）

2009 年 05 月 25 日

日本消防ホース工業会

はじめに

経年劣化したホースによる消火活動中の事故を未然に防ぐため、これまで十分な定期点検がなされていなかった場合には、次の定期点検を実施されるよう注意喚起申し上げます。なお、本案は最低限の内容であり、屋内進入用ホース等の場合は更に厳しい点検が必要です。

1．点検基準（機器点検）

(1) 外形点検

ホースおよび結合金具は、変形、損傷、著しい腐食がないこと。

(2) 耐圧性能

次表の頻度でホースに所定の圧力を掛けた場合において、変形、損傷又は著しい漏水等がないこと。

経過年数	点検頻度	点検実施時期（最低限の1回実施する場合）
～6年	2年に1回以上	2年目の年初～年末、4年目…、6年目…
7～10年	1年に1回以上	7年目の7月初～年末、8年目…、9年目…、10年目…
11年～	半年に1回以上	11年目の4月初～6月末、11年目の10月初～12月末、…

注記：経過年数とはホース製造年の末日から現在までの期間のことである。なお、実際の製造期間と点検実施期間を図示すると添付図のようになり、この期間中に点検を行えばよい。

2．点検要領（機器点検）

(1) 外形点検

ホース保管棚又は積載車輛から取り出して、目視及び手で操作することにより確認する。
収納状態でのホースおよび結合金具に変形、損傷、著しい腐食がないこと。
結合金具の着脱が容易に出来ること。

(2) 耐圧性能

ホースに充水し、消防ポンプ等により所定の圧力を5分間かけて確認する。
加圧する前にポンプ側接続金具及びシャットオフノズル等との接続が適正であることを充分確認すること。
空気の残留がないことを確認してから加圧すること。
所定の圧力は、「消防用ホースの技術上の規格を定める省令」（昭和43年自治省令第27号）によりホースの種類に応じて定められた使用圧を基本とすること。
ホース接続金具を固定するなどの危険防止対策を講じた後、急激な昇圧を避け、圧力計で確認しながら徐々に加圧すること。

耐圧確認の結果、変形、損傷等がなく、ホース及び金具との接続部から著しい漏水等がないこと。（著しい漏水は噴水状の漏水又は継続する滴下が生じる状態を目安にすること）